

令和3年度 第1回加西市総合教育会議 会議録

1 開会日時 令和3年6月22日(火) 15時30分

2 閉会日時 同日 16時55分

3 開催場所 加西市役所 1階多目的ホール

4 出席委員 市長 西村 和平
教育長 民輪 惠
教育長職務代理者 沼澤 郁美
委員 楠田 初美
委員 中川 和之
委員 深田 英世

5 委員及び傍聴人を除き、会場に出席した者の氏名

ふるさと創造部長	千石 剛
ふるさと創造部 人口増政策課長	藤後 靖
ふるさと創造部 人口増政策課係長	岩野 裕之
教育委員会事務局 教育部長	植田 正吾
教育委員会事務局 次長	高倉 慧喜
教育委員会事務局 教育総務課長	伊藤 勝
教育委員会事務局 課長(学校施設担当)	井上 英文
教育委員会事務局 学校教育課長	安富 重則
教育委員会事務局 こども未来課長	丸山 常基
教育委員会事務局 生涯学習課長	北島 悦乃
教育委員会事務局 図書館長	藤川 貴博
教育委員会事務局 総合教育センター所長	工藤 憲人

6 傍聴者 一般：3名、報道機関：0名

7 協議事項

- (1) 加西市教育大綱の策定について
- (2) 「学校ありかた学習会」及び視察について

8 会議内容

別紙のとおり

会議録

次第

- 1 市長挨拶
- 2 教育長挨拶
- 3 協議事項

(1) 加西市教育大綱の策定について

〔意見・質疑〕

委員 3点確認したい。まず、2ページ「II 位置づけ」の図に「加西市教育大綱」、「加西市教育振興基本計画」の根拠法が各々横に示されているが、「教育基本法」は教育に関する最上位法であるため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」との配置関係が気になる。

次に、3ページ「基本方針」について、前提として「人生100年時代」に対応できるような子どもを育てていくという意味で、基本方針の1と2を入れ替えてはどうか。また、基本方針1に「グリーン社会の実現」という表現があるが、少し幅が狭く感じるため、SDGsにあるように「持続可能な社会の実現」に変えてはどうか。

最後に、5ページの「教育格差の解消」については、子どもの教育支援にあたるので、基本方針1に該当するのではないか。また、基本方針2は生涯学習がメインであるため、2番目に記載されている「生涯にわたる学習機会の促進」を一番上に移動させてはどうか。

事務局 ご意見を踏まえ、教育委員会事務局と調整しながら適切な修正を行う。

市長 5ページの「教育格差の解消」について、子どもの貧困問題が深刻であると認識しており、「誰もが学べる機会の促進」という意味において、基本方針2に配置している。

委員 3点確認したい。まず、4ページの「探究的な学び（STEAM教育）の推進」に記載されている内容からすると、見出しは「ICT活用によるプログラミング教育の充実」等の表現になるのではないか。STEAM教育については、「加西市教育振興基本計画」にある「自らが課題を見つけ、解決を図りつつ、自らが責任をとることのできる自立した人間として、たくましく生き抜いていく」という文言を流用する方が、内容と合致するのではないか。次に、3ページの基本方針3の文言で、「学校教育、社会教育と家庭教育とが連携し、」と「学校園・家庭・地域社会等が一体となって」という文言があるが、前者と後者の並びを揃えた方が良いのでは。

事務局 1点目について、内容をSTEAM教育のみの表現に改める。2点目については、ご意見を踏まえ、教育委員会事務局と調整させていただく。

(2) 「学校ありかた学習会」及び視察について

〔意見・質疑〕

委員 たくさんの視察や勉強会を実施していただき、感謝申し上げます。新しい学習指導要領にある「社会に開かれた教育課程の実現」という観点から、自分なりのテーマをもって、参加させていただいた。

まず、コミュニティ・スクールについて、学校と地域住民が力を合わせて学校運営に取り組み、地域と共に特色ある学校づくりを目指す工夫をしないといけない。

次に、小中連携について、子ども達が自ら学び、考え、探究することによって生きる力を育むとともに、不登校・いじめ・中1ギャップ等の取組を行うことによって、特色ある学校連携による学校づくりができればと思う。視察した大分県九重町では、中学校が1校に統合されており、そこへ小学生が科目によっては集合学習を行っている。目的としては適正人数での授業を行うことであり、コミュニケーション能力が熟成されている。

中学校の学校あり方について、単学級では、集団の中でのコミュニケーション能力がつきにくいこと、人間関係が固定化されるため切磋琢磨する環境が薄いこと、部活動が制限されてしまうこと、教職員が専門外の教科を教えないといけないため学力にも影響が出るのではないかという問題があると思う。九重町を見ていて、中学校については複数学級を目指したあり方を検討してはどうかと思う。

今度、納得できる「学校のあり方」が示せるよう熟議をもって、市民の意見をよく聞きながら最高の学校づくりを進めていきたいと思う。

委員 たくさんのお話を聞かせていただく機会を設けていただき感謝する。学校づくりについて、何も分からない状況のなか不安であったが、勉強させていただいた。

日渡先生の研修では「150年以上も同じ教育をしていては時代に取り残される」という話を聞き、目から鱗が落ちる思いだった。子ども達の学校がもっと楽しいものになるような話もあり、もっと聞いてみたいと思った。

また、三木市では小中一貫校を進めた経緯をお話しいただき、大変さを知ることができた。九重町では小中学校を視察させていただき、様々な意見をきいた。加西市より小さい町でありながら思い切った整備計画構想を持っておられ、「人づくりはまちづくり」を基本理念とし、人材育成を目的として進められていることに感動した。

加西市も九重町のようにありたいと思うが、加西には加西のやり方があると思う。子ども達は、地域の方々など、たくさんの人々に見守られることによって、自然と自立しようとするようになる。その時に、大人が少し背中を押してあげることが、中学校のあり方への考え方に転換すると思う。もう少し、視察や勉強を行い、検討させていただきたいと思う。

委員 日渡先生のお話にもあったが、学習指導要領は戦後から時代背景をもって変化を続けており、現在の「人生100年時代」を生き抜くため、子ども達がどのような力を身につけないといけないのかをしっかりと考えていかないといけない。コロナウイルス感染症の影響もあるが、学校訪問の際に子ども達がデジタル機器を慣れ親しんで活用している様子を

見て、現場も大きく変化していると感じた。

また、勉強会の熟議では、「大規模校と小規模校には各々利点や弊害があり、みんなで話し合い、良いところ悪いところを出し合うことによって方向性が見えてくる」という話をされていたのが印象的であった。三木市では、中学校のあり方を先に取り組み、その後、小学校に取り掛かるという話であった。加西市も中学校の小規模化というのは、小学校以上に課題があると思う。みんなで知恵を出していかないといけない。

委員 視察や勉強する機会を与えていただいたことに本当に感謝申し上げる。三木市の視察では、担当者が「就学前の親に意見を聞いたことがよかった」と言われていたことや、「小さな学校を大きな学校に吸収するのではなく、新しい学校であるという意識をもって、再編にあたった」と話されていたことが印象に残っている。

九重町の中学校では、①特産である杉をふんだんに使用している、②中央にホテル並みのトイレや図書館がある、③グラウンドに人工芝を使用している、④市が保有する有名な絵画を展示している、⑤調理室が斬新なデザインになっている、などワクワクして集まれる魅力的な施設となっており、あの学校に行きたいと感じさせられる。

また、小学校の複式学級を視察させていただいたが、メリットとして、①異年齢で助け合うこと、②複式であるからといって学力が落ちる訳ではないこと、③行事は地域が助けて下さること、④不登校の問題が全くなく、そのため教員の残業がないことが挙げられており、複式をプラスと考えて授業を組み立てている。

逆にデメリットとしては、①複式授業には新任の先生を担当させることはできず、ベテランの先生になること、②2学年分の授業準備を行わないといけないこと、③理科や算数では困難であることが挙げられていた。

視察にて様々な意見があったが、加西は加西のやり方があるので模索できればと思う。ただし、子どもを中心として考えることを根幹にしないといけない。あり方について、意見を出せるのにもう少し時間がかかるかもしれない。

教育長 加西市で今後どのように学校のあり方を決めていくのか、九重町の取組が大変参考になった。少人数のため、1つに統合された中学校はモダンなデザインですばらしい施設になっている。総合的な構想を打ち出して、学校の規模関係なく、全部の学校を合わせて一つと捉え、支局のように各校があるという考え方である。

また、スクールバスを待つ間、図書館で待つことが出来るといったオープンな雰囲気である。建物は教育の姿勢を表すと思うので、デザインにも意識してもらいたい。

今後、学校のあり方について、もう少し議論をしていきたい。どういう形で小学校、中学校を整備していくかは現状では具体的に表明できないが、きっちりと模索している。

委員 九重町は1つの町で1つの中学校となっているため、教職員人事の固定化が懸念されたが、兵庫県と違い、県で広域人事を行っているとのことである。

市長 大変熱心に勉強していただき、感謝申し上げます。今日の話聞かせていただいて、有

意義な時間を過ごされていたことが良く分かった。各々の認識も深まり、だいぶ検討が進んでいると感じた。今後も協議を続け、最終どのようにするかご相談したい。一部、早く示した方がいいとの声もあるが、充分議論を行い、しっかりと案を打ち出すことが大事である。整備の形だけではなく、教育の中身も同時に打ち出せるようにしていきたい。

また、お願いとして、現場の教職員を交えた協議はどんどん行っていただきたい。保護者や地域の意見も大事であるが、それを聞いておられる教職員の正直な意見をアンケートでもらっている。後は地域へ説明するという段階になる際には、きっちりとした案を作ったうえで、丁寧に説明していきたい。

4 その他